

Figure6 男女ごとのHDS-R得点の分布

※数値(%)は性別ごとの割合を表している。

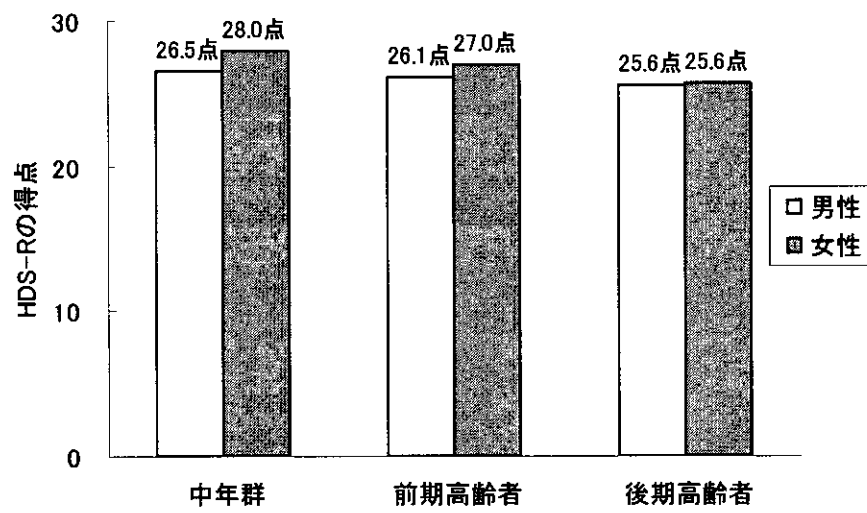


Figure7 男女および年齢3群ごとのHDS-Rの得点の平均

(4) QOL の得点

QOL（主観的幸福感）の測定には、石原・内藤・長嶋（1992）が作成した主観的な側面を測定する QOL 質問表を用いた。その質問表は、合計 12 項目の質問項目から構成され、3 つの下位尺度ある。それらの下位尺度はそれぞれ 4 項目ずつであり、「満足感」、「心理的安定感」、「生活のハリ」である。得点が高いほど心理的に良好であるよう得点化した。QOL 総得点の満点は 36 点、下位尺度の満点はそれぞれ 12 点であった。

1116 名全員の平均は、QOL 総得点が 29.9 点（SD=4.3）であった。下位尺度の「満足感」は 11.1 点（SD=1.6）、「心理的安定感」は 8.8 点（SD=2.8）、「生活のハリ」は 10.1 点（SD=2.0）であった。

QOL 総得点について、男女ごとに得点分布を Figure 8 に示した。図が示すように男女ともに高得点の方が多く、顕著な性差がない傾向がみられた。男女ごとの平均は、QOL 総得点が男性 440 名は 30.1 点（SD=4.3）、女性 685 名は 29.9 点（SD=4.4）であった。

QOL 総得点について、年齢の違いを検討するために、中年群、前期高齢者、後期高齢者の 3 群の男女ごとの平均得点を Figure 9 に示した。図が示すように年齢や性による顕著な違いはみられなかった。

下位尺度の「満足感」で男性 449 名は 11.0 点（SD=1.7）、女性 685 名は 11.1 点（SD=1.5）、「心理的安定感」では男性 8.9 点（SD=2.6）、女性 8.7 点（SD=2.8）、「生活のハリ」は男性 10.2 点（SD=1.9）、女性 10.0 点（SD=2.1）であった。いずれの下位尺度においても男女による得点の大きな違いは見られなかった。

QOL 下位尺度の得点について、年齢の違いを検討するために、中年群、前期高齢者、後期高齢者の 3 群の男女ごとの平均得点を Figure 10 に示した。図が示すように満足感や心理的安定感では年齢や性による顕著な違いはみられなかった。しかし、生活のハリでは男女による性差はみられなかったが、後期高齢者の得点が低い傾向がみられた。

生活のハリの得点について、年齢（3 群）、性を被験者間要因とした 2 要因の分散分析を行った。その結果、年齢（ $F(2,1115)=23.04, p<.001$ ）に主効果が得られ、交互作用は認められなかった。年齢に主効果が得られたので、下位検定を行った。その結果（tukey 法、有意水準は 5% に設定）、中年群と後期高齢者、前期高齢者と後期高齢者で差が認められた。

この結果は、中年群と前期高齢者の間に差は認められなかったが、しかし、中年群より後期高齢者、前期高齢者より後期高齢者の得点が低いことを示している。つまり、後期高齢者の生活のハリの得点が低かった。

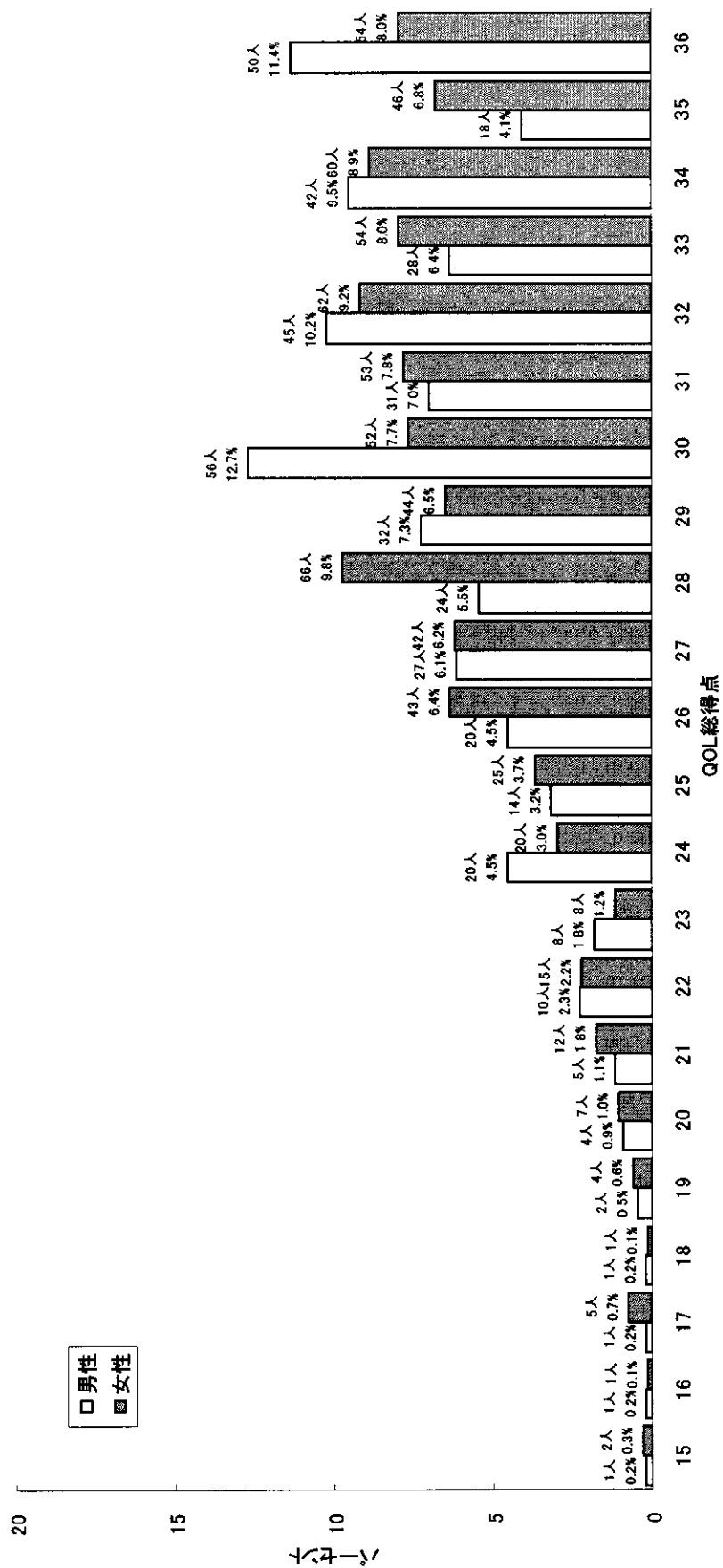


Figure8 男女ごとのQOL総得点の分布

※数値 (%) は性別ごとの割合を表している。

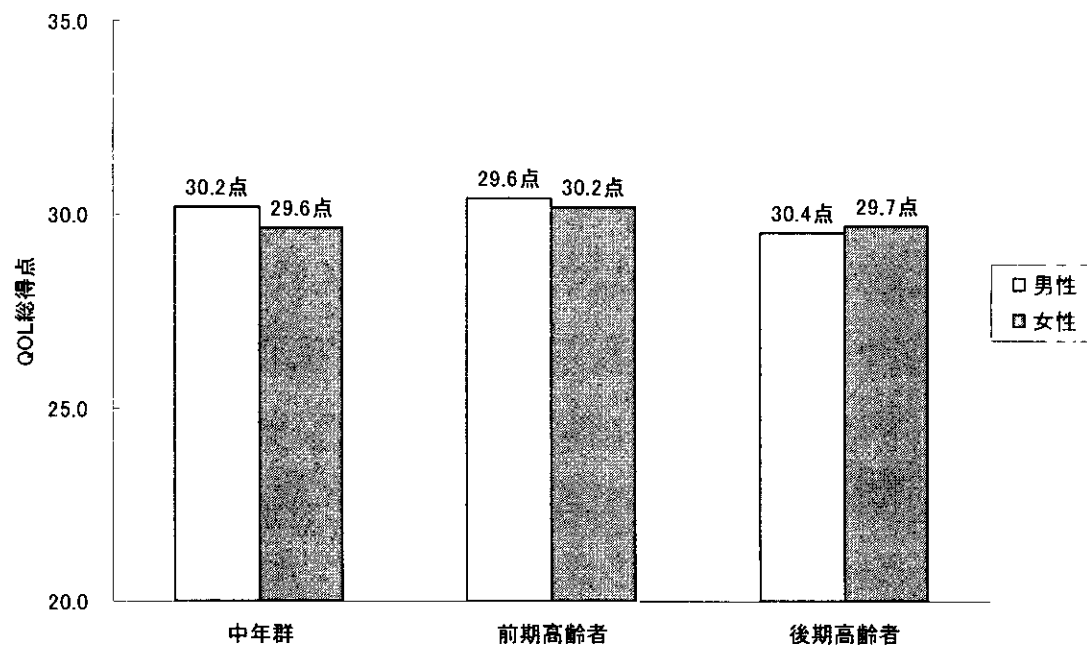


Figure9 男女および年齢3群ごとのQOL総得点の平均

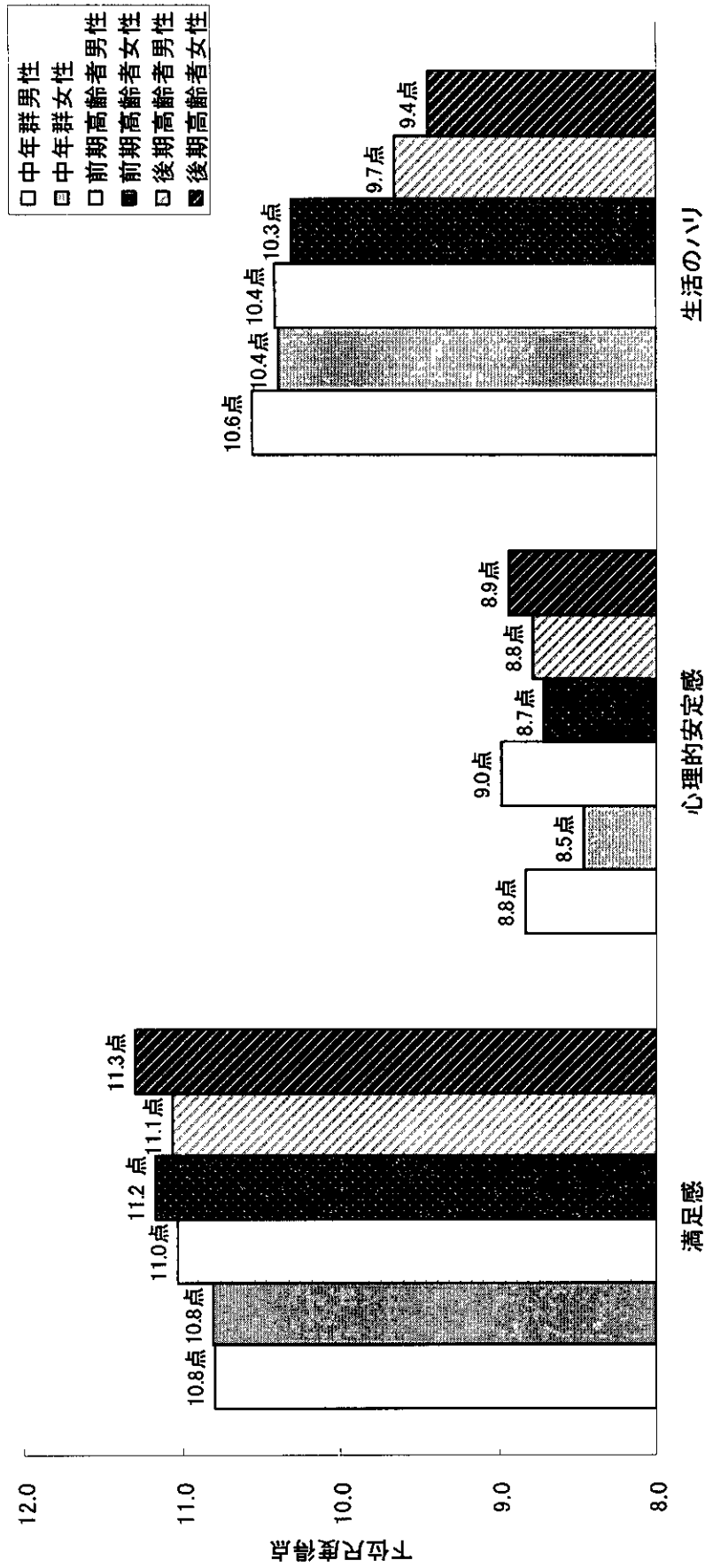


Figure 10 男女および年齢3群ごとのQOL下位尺度の得点の平均

(2) 地方都市部における中高年者の主観的な日常記憶・認知 および HDS-R との関連

分担研究者 石原 治（東京都老人総合研究所痴呆介入グループ研究員）

研究要旨：認知・記憶のどのような側面において支障をきたしていると感じているかを明らかにすることを目的とし、昨年度の分析で得られた因子の再現性の確認も行った。分析対象者は、宮城県気仙沼市大島地区の55歳以上の島民1134名（回収率73.2%）のなかから健常高齢者927名および改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）が10～20点の109名の2群であった。健常高齢者に関して、因子分析の結果、8因子が抽出され、①最新情報機器、②表情認知、③忘却、④貯蔵、符号化、⑤自伝的記憶、⑥環境認知、⑦記憶補助、⑧展望的記憶と命名した。また、これらの因子が加齢の影響を受けない結果も得られた。さらに、HDS-Rによって測定される記憶・認知パフォーマンスとの関連では、④貯蔵、符号化、⑥環境認知、⑦記憶補助、⑧展望的記憶の因子との関連が示唆された。

我が国では高齢社会が急速に進展し、痴呆性高齢者のケアや介護負担の抑制が大きな社会的課題となってきた。痴呆の主要な原因であるアルツハイマー病など痴呆に関する研究が進み、さまざまなことが解明されつつある。

近年、痴呆を発症する以前の状態についての研究が進み、MCI(Mild Cognitive Impairment)、AACD(Age-Associated Cognitive Decline)といった認知的な障害が注目を集めている。痴呆と診断される5～10年前から、このような認知的な障害の兆候が出始めていると言われている。MCIやAACDの一部は、痴呆に移行するリスクが、一般の人と比べて高いことがわかっている。このように、痴呆と診断される数年前に、軽度の記憶障害など認知的機能が低下し始める段階があり、それを経て、痴呆発症に至るケースが多いと考えられている。

MCIのように記憶や認知機能が低下する以前にも、さらに軽微な障害が日常生活を送る上で現れているのではないかと考えられる。記憶機能にはさまざまな側面があり、例えば、ほんの短い時間記憶している短期記憶と遠い過去の出来事を長期間覚えている長期記憶では、記憶の仕組みや働きが異なっている。

そこで、軽微な段階の認知的低下が、まずどのような側面で現れ、それが日常生活の中でどのように意識されているのかを検討する必要があると考えられた。

本研究では、このような観点から、高齢者が、どのような側面の記憶機能や認知機能の低下を、どのような日常生活上の変化として主観的にとらえているのかを明らかにすることを目的とし、調査を行なった。

まず手始めとして平成13年は東京都世田谷区で訪問悉皆面接調査を行った。その詳細は平成13年度長寿科学総合研究事業「痴呆予防と初期痴呆高齢者に対する日常生活支援の方法に関する研究」(主任研究者：長嶋紀一)の分担研究報告「日常認知・記憶の主観的側面に関する研究」(92～108頁)で報告した。その報告のなかで述べたように65歳～80歳の高齢者2332名の36の質問項目の因子分析の結果、7因子を抽出した。それらの因子を①表情認知、②符号化、貯蔵、検索などの記憶の処理過程、③最新情報機器の使用、④展望的記憶、⑤環境認知、⑥自伝的記憶、⑦記憶補助と命名した。

しかしながら、今後の検討課題がいくつか考えられた。たとえば、②記憶の因子は命名が困難であった。したがって、記憶の質問項目は、再設定の必要性があった。大規模サンプルであることから上記の結果は恒常的であると考えられるが、因子の再現性を確認するためにも再度調査を行い、確認する必要があると考えられた。さらに、実際のパフォーマンスとの関連も検討も行う必要があると考えられた。そこで、本研究では地方都市部で大規模な調査を行い、簡易的な認知パフォーマンスの測定も行った。

【方法】

対象者

宮城県気仙沼市大島地区の55歳以上の全島民1550名が対象者であった。有効回答のあった1134名(回収率73.2%)のなかから要介護認定がなく、改訂長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)が20点以下を除いた比較的健常な高齢者927名(男性365名、平均年齢68.7歳(SD=7.4)、女性577名、平均年齢69.8歳(SD=8.4))およびHDS-Rが11点～20点であった109名(男性49名、平均年齢76.0歳(SD=9.0)、女性60名、平均年齢80.6歳(SD=7.3))の2群を分析対象者とした。

質問項目

基本属性に加え、日常記憶・認知の項目には、昨年度東京都世田谷区において行った調査を分析し、因子分析の結果最適解として7因子を抽出した。今回の調査項目の設定にもこれら7因子の結果を参考にした。まず、①表情認知、③最新情報機器の使用、④展望的記憶、⑤環境認知、⑥自伝的記憶、⑦記憶補助の6因子からは、因子負荷量の高かった2項目ずつを用いた。②記憶の因子に関しては新たに8項目再設定した。さらに、分配的注意に関する2項目も作成した。

課題

認知的なパフォーマンスの測定には、痴呆のスクリーニングテストであるHDS-Rを用いた。

手続き

悉皆訪問面接法を用いた。

【結果・考察】

(1) 日常記憶・認知の結果

健常高齢者の因子分析

分析には55歳以上の全員を用いた。ただし、手続きで述べたように、HDS-Rの得点が20点以下および要介護者を除外した927名であった。

因子分析を行った結果、最適解として8因子が抽出された(表1参照)。

第1因子は「インターネットを使えるようになりたいですか」、「コンピュータを使えるようになりたいですか」の2項目であった。最新情報機器と命名した。

第2因子は「人の喜びの表情がわかりにくいですか」、「人の悲しみの表情がわかりにくいですか」の2項目であった。表情認知と命名した。

第3因子は「言おうとしたことを忘れてしまったことがありますか」、「何かをするはずだったのに何であったか忘れてしまうことがありますか」、「思い出そうとするが思い出せないことがありますか」、「何かを思い出すのに苦労しますか」の4項目であった。忘却と命名した。

第4因子は「覚えていることが難しいですか」、「ちょっとした間でもあるこ

とを覚えられないですか」, 「新しいことを覚えるのに時間がかかりますか」, 「大勢の人が話しているなかで, 誰かと話をするのは難しいですか」, 「電話をかけるまで電話番号が覚えられないのでメモをとりますか」, 「本や新聞を読みながらテレビを見るのは難しいですか」の 6 項目であった。しかし, 因子負荷量が 0.4 以上であったのは「覚えていることが難しいですか」, 「ちょっとの間でもあることを覚えられないですか」, 「新しいことを覚えるのに時間がかかりますか」であった。覚えておいたり, 覚えることに関することから, 貯蔵, 符号化と命名した。

第 5 因子は「20 歳代の頃のことをはっきりと思い出せますか」, 「小学生の頃のことをはっきりと思い出せますか」の 2 項目であった。遠い自分のことの過去に関する超長期記憶であるが, 自伝的記憶と命名した。

第 6 因子は「公衆トイレの男女の標識がわかりにくいですか」, 「道路の信号の色がわかりにくいですか」の 2 項目であった。周囲の認知に関することから, 環境認知と命名した。

第 7 因子は「忘れないよう, いろいろ自分なりに工夫をしていますか」, 「忘れないよう, メモやカレンダーを利用していますか」の 2 項目であった。覚えることを手助けすることであるから, 記憶補助と命名した。

第 8 因子は「楽しみにしていた予定や約束を忘れますか」 「予定や約束を忘れてしまって, 人に迷惑をかけますか」の 2 項目であった。将来の記憶に関する記憶であることから, 展望的記憶と命名した。

表が示すように, ③と④の因子を除いては, 平成 13 年の因子分析の結果とほとんどおなじであった。したがって, これらの因子に関しては, 因子の再現性が確認されたと言える。日常記憶・認知にはこれらの因子に関連する自覚症状が深く関与していることが明らかになった。しかしながら, 記憶の因子に関しては, ③忘却と④貯蔵, 符号化と命名される可能性があったが, さらなる検討が必要である。

表1 健常高齢者の因子分析の結果 (n = 927)

因子名	質問項目	因子負荷量							
		Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5	Factor6	Factor7	Factor8
①最新情報機器	4 インターネットを使えるようになりたいですか	0.89	-0.04	0.01	-0.06	0.02	-0.03	0.06	0.01
	3 コンピュータを使えるようになりたいですか	0.89	-0.05	-0.01	-0.03	0.06	-0.07	0.08	-0.01
	1 人の喜びの表情がわかりにくいですか	-0.05	0.86	0.00	0.10	-0.08	0.14	0.01	0.09
②表情認知	2 人の悲しみの表情がわかりにくいですか	-0.05	0.86	0.00	0.07	-0.10	0.11	0.04	0.15
	14 言おうとしたことを忘れてしまったことがありますか	-0.07	0.02	0.61	0.09	-0.05	0.02	0.06	0.09
	13 何かをするはずだったのに何であっか忘れてしまいましたことがありますか	0.00	-0.04	0.61	0.10	-0.01	-0.01	0.06	0.11
③忘却	15 思い出すとずるが思い出せないことがありますか	0.03	0.04	0.60	0.24	0.01	-0.04	0.03	0.03
	16 何かを思い出すのに苦労しますか	0.09	-0.01	0.49	0.33	-0.03	-0.04	-0.15	0.09
	19 覚えていたことが難しいですか	-0.02	0.08	0.14	0.56	-0.04	0.00	0.11	0.10
④貯蔵、符号化	22 ちよつとの間でもあることを覚えられないですか	-0.07	0.10	0.05	0.51	-0.11	0.06	0.11	0.12
	20 新しいことを覚えるのに時間がかかりですか	0.02	0.02	0.24	0.43	-0.06	0.01	0.08	-0.01
	17 大勢の人が話しているなかで、誰かと話をするのは難しいですか	-0.04	0.08	0.02	0.38	-0.19	0.11	0.08	-0.02
⑤自伝的記憶	21 電話をかけるまで電話番号が覚えられないのでメモをとりますか	0.04	-0.04	0.20	0.36	0.01	0.06	0.12	0.04
	18 本や新聞を読みながらテレビを見るのは難しいですか	-0.03	-0.03	0.10	0.23	-0.09	0.08	-0.06	0.08
	9 20歳代の頃のことがはっきりと思い出せますか	0.03	-0.07	-0.04	-0.15	0.68	-0.07	0.01	-0.08
⑥環境認知	10 小学生の頃のことがはっきりと思い出せますか	0.03	-0.08	-0.02	-0.16	0.68	-0.07	0.04	-0.04
	7 公衆トイレの男女の標識がわかりにくいですか	-0.04	0.11	-0.03	0.10	-0.07	0.55	0.03	0.08
	8 道路の信号の色がわかりにくいですか	-0.03	0.06	0.00	0.06	-0.05	0.54	0.03	0.04
⑦記憶補助	12 忘れないよう、いろいろ自分なりに工夫をしていますか	-0.02	0.09	-0.06	0.20	-0.02	0.05	0.55	-0.02
	11 忘れないよう、メモやカレンダーを利用してはいますか	0.14	-0.05	0.15	0.09	0.06	0.02	0.49	-0.05
	5 楽しみにしていた予定や約束を忘れませんか	-0.04	0.11	0.07	0.13	-0.10	0.04	0.04	0.45
⑧展望的記憶	6 予定や約束を忘れてしまって、人に迷惑をかけますか	0.04	0.05	0.12	0.06	0.00	0.07	-0.10	0.45

65～80 歳の対象者のみの因子分析の結果

平成 13 年の対象者の年齢と同じように 65～80 歳の高齢者を分析に用いた。546 名が分析対象者であった。因子分析を行った結果、8 因子が抽出された（表 2 参照）。全対象者の因子分析の結果とほぼ同じであった。

表2 65歳～80歳の高齢者の因子分析の結果 (n = 546)

因子名	質問項目	因子負荷量							
		Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5	Factor6	Factor7	Factor8
①最新情報機器	4 インターネットを使えるようになりたいですか	0.89	0.00	-0.01	-0.04	0.00	0.01	0.06	0.04
	3 コンピュータを使えるようになりたいですか	0.89	0.02	-0.02	-0.02	0.05	-0.04	0.05	0.04
	13 何かをするはずだったのに何であっただか忘れてしまいましたか	0.03	0.65	-0.02	0.06	0.03	-0.02	0.02	0.09
③忘却	14 言おうとしたことを忘れてしまいましたか	-0.05	0.64	0.02	0.09	-0.07	0.04	0.04	0.07
	15 思い出すとすることが思い出せないことがありますか	0.01	0.59	0.03	0.30	-0.03	-0.06	0.05	0.04
	16 何かを思い出すのに苦労しますか	0.10	0.46	-0.02	0.42	-0.07	-0.04	-0.09	0.09
②表情認知	1 人の喜びの表情がわかりにくいですか	-0.01	0.00	0.85	0.09	-0.07	0.14	0.03	0.09
	2 人の悲しみの表情がわかりにくいですか	-0.03	0.02	0.85	0.05	-0.12	0.09	0.05	0.12
④貯蔵、符号化	19 覚えていたことが難しいですか	-0.02	0.10	0.09	0.54	-0.02	0.01	0.12	0.12
	22 ちよつとの間でも覚えるのに時間がかかりですか	-0.06	0.02	0.09	0.49	-0.12	0.10	0.17	0.14
	20 新しいことを覚えるのに時間がかかりですか	0.02	0.25	0.05	0.43	-0.06	-0.05	0.07	-0.02
⑤自伝的記憶	21 電話をかけるまで電話番号が覚えられないのでメモをとりますか	0.03	0.19	-0.04	0.40	0.03	0.06	0.14	0.03
	17 大勢の人が話しているなかで、誰かと話をするのは難しいですか	0.00	0.01	0.06	0.37	-0.19	0.11	0.08	-0.01
	18 本や新聞を読みながらテレビを見るのは難しいですか	-0.04	0.05	-0.02	0.28	-0.05	0.05	-0.08	0.09
⑥環境認知	9 20歳代の頃のことがかがはつきりと思いませんか	0.01	-0.04	-0.06	-0.11	0.70	-0.06	0.04	-0.07
	10 小学生の頃のことがかがはつきりと思いませんか	0.04	-0.05	-0.10	-0.16	0.69	-0.11	0.01	-0.04
⑦記憶補助	8 道路の信号の色がわかりにくいですか	0.01	0.00	0.07	0.06	-0.04	0.57	0.00	0.01
	7 公衆トイレの男女の標識がわかりにくいですか	-0.03	-0.03	0.08	0.09	-0.10	0.56	0.01	0.05
	12 忘れないよう、いろいろな自分なりに工夫をしていますか	-0.04	-0.05	0.10	0.15	-0.02	0.04	0.56	-0.02
⑧展望的記憶	11 忘れないよう、メモやカレンダーを利用していませんか	0.12	0.11	-0.05	0.09	0.06	-0.02	0.51	-0.05
	6 予定や約束を忘れてしまつて、人に迷惑をかけますか	0.08	0.10	0.06	0.09	0.02	0.02	-0.10	0.49
	5 楽しみにしていた予定や約束を忘れませんか	-0.02	0.08	0.10	0.15	-0.13	0.03	0.05	0.47

中年、前期・後期高齢者の因子分析の結果

加齢の影響を検討するために、55歳以上65歳未満の303名を中年群、65歳以上75歳未満の366名を前期高齢者、75歳以上の258名を後期高齢者とし、3群に分けた。そして、それぞれの群ごとに因子分析を行なった（表3～表5）。3群の因子分析の結果を比べても、因子の抽出順位が異なっていることを除いては、顕著な違いは見られず、因子構造はほぼ同じであったことが明らかになった。この結果から、日常記憶・認知の因子構造は加齢に影響しないことが示唆された。

表3 55歳～64歳の中年群の因子分析の結果 (n = 303)

因子名	質問項目	因子負荷量							
		Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5	Factor6	Factor7	Factor8
②表情認知	2 人の悲しみの表情がわかりにくいですか	0.88	-0.09	-0.01	-0.06	0.06	0.03	0.09	0.18
	1 人の喜びの表情がわかりにくいですか	0.87	-0.12	0.01	-0.11	0.11	0.01	0.13	0.08
①最新情報機器	4 インターネットを使うようになりたいですか	-0.09	0.87	0.02	0.06	-0.07	0.06	-0.08	0.01
	3 コンピュータを使うようになりたいですか	-0.11	0.87	-0.03	0.08	0.01	0.14	-0.10	-0.02
③忘却	15 思い出すとずるが思い出せないことがありますか	0.01	0.02	0.60	0.01	0.11	0.05	-0.06	0.02
	16 何かを思い出すのに苦労しますか	0.01	0.06	0.57	-0.03	0.09	-0.13	0.00	-0.04
④貯蔵、符号化	13 何かをするはずだったのに何であっただか忘れてしまうことがありますか	-0.07	-0.06	0.50	-0.02	0.15	0.07	-0.06	0.23
	14 言おうとしたことを忘れてしまったことがありますか	0.01	-0.10	0.47	0.03	0.16	0.05	-0.03	0.24
⑤自伝的記憶	21 電話をかけるまで電話番号が覚えられないのでメモをとりますか	0.00	0.07	0.30	-0.12	0.16	0.14	0.03	0.01
	18 本や新聞を読みながらテレビを見るのは難しいですか	0.07	-0.06	0.27	-0.25	-0.04	0.07	0.05	-0.04
⑥記憶補助	10 小学生の頃のことをはっきりと思い出せますか	-0.02	0.04	0.01	0.70	-0.10	0.06	-0.05	-0.11
	9 20歳代の頃のことをはっきりと思い出せますか	-0.03	0.07	-0.01	0.69	-0.16	-0.01	-0.11	-0.12
⑦記憶補助	17 大勢の人が話しているなかで、誰かと話をするのは難しいですか	0.18	-0.01	0.18	-0.41	0.23	0.15	0.03	-0.13
	22 ちよつとの間でもあることを覚えられないですか	0.09	-0.07	0.15	-0.13	0.56	0.01	0.05	0.08
⑧環境認知	19 覚えておくことが難しいですか	0.08	0.00	0.25	-0.11	0.54	0.13	0.04	-0.02
	20 新しいことを覚えるのに時間がかかりませんか	-0.02	0.02	0.28	-0.13	0.39	0.12	0.08	-0.01
⑨展望的記憶	11 忘れないよう、メモやカレンダーを利用していませんか	0.01	0.16	0.16	0.02	-0.01	0.55	0.01	-0.10
	12 忘れないよう、いろいろ自分なりに工夫をしていますか	0.03	0.02	-0.06	-0.06	0.28	0.51	0.09	0.05
	7 公衆トイレの男女の標識がわかりにくいですか	0.14	-0.04	-0.02	-0.09	0.05	0.02	0.54	0.10
	8 道路の信号の色がわかりにくいですか	0.01	-0.07	-0.04	-0.05	0.06	0.05	0.54	-0.02
	5 楽しみにしていた予定や約束を忘れませんか	0.11	-0.03	0.05	-0.01	0.12	0.03	0.09	0.47
	6 予定や約束を忘れてしまって、人に迷惑をかけませんか	0.08	0.04	0.14	-0.16	-0.14	-0.13	-0.02	0.44

表4 65歳～74歳の前期高齢者群の因子分析の結果 (n = 366)

因子名	質問項目	因子負荷量							
		Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5	Factor6	Factor7	Factor8
②表情認知	1 人の喜びの表情がわかりにくいですか	0.92	0.00	0.00	0.03	-0.06	0.13	0.01	0.10
	2 人の悲しみの表情がわかりにくいですか	0.92	-0.03	0.01	0.05	-0.11	0.11	0.03	0.12
①最新情報機器	4 インターネットをえるようにになりたいですか	-0.03	0.89	0.00	-0.05	0.00	-0.01	0.04	0.03
	3 コンピュータをえるようにになりたいですか	0.00	0.88	0.02	-0.02	0.04	-0.07	0.03	0.03
③忘却	13 何かをするはずだったのに何であっただか忘れてしまっことがありますか	-0.01	0.03	0.68	0.11	0.01	-0.06	0.05	0.03
	14 言おうとしたことを忘れてしまったことがありますか	0.02	-0.07	0.63	0.11	-0.10	-0.01	0.09	0.09
④貯蔵, 符号化	15 思い出すのが思い出せないことがありますか	0.01	0.03	0.56	0.32	0.02	0.01	0.00	0.19
	16 何かを思い出すのに苦労しますか	-0.01	0.14	0.42	0.42	-0.03	0.01	-0.16	0.17
	19 覚えていることが難しいですか	0.11	-0.02	0.11	0.48	-0.10	-0.03	0.13	0.19
	22 ちよつとの間でも覚えることを覚えられないですか	0.03	-0.04	0.03	0.46	-0.15	0.13	0.23	0.24
	20 新しいことを覚えるのに時間がかかりますか	0.05	0.02	0.24	0.45	-0.03	0.00	0.09	-0.06
	21 電話をかけるまで電話番号が覚えられないのでメモをとりますか	-0.04	0.05	0.23	0.41	0.07	0.08	0.10	0.00
	17 大勢の人が話しているなかで、誰かと話をするのは難しいですか	0.04	-0.03	0.01	0.38	-0.26	0.06	0.07	-0.04
	18 本や新聞を読みながらテレビを見るのは難しいですか	-0.03	-0.07	0.05	0.34	-0.05	0.00	-0.08	0.10
⑤自伝的記憶	9 20歳代の頃のことをはっきりと思い出せますか	-0.06	0.00	-0.01	-0.11	0.69	-0.09	0.06	-0.05
	10 小学生の頃のことをはっきりと思い出せますか	-0.08	0.03	-0.06	-0.11	0.68	-0.15	0.02	-0.10
⑥環境認知	7 公衆トイレの男女の標識がわかりにくいですか	0.12	-0.04	-0.06	0.07	-0.16	0.62	0.04	0.06
	8 道路の信号の色がわかりにくいですか	0.06	-0.02	0.00	0.03	-0.06	0.60	0.00	-0.02
⑦記憶補助	12 忘れないよう、いろいろ自分なりに工夫をしていますか	0.07	-0.05	-0.03	0.09	-0.03	0.04	0.60	0.03
	11 忘れないよう、メモやカレンダーを利用してはいますか	-0.06	0.15	0.15	0.09	0.12	-0.01	0.52	-0.09
⑧展望的記憶	6 予定や約束を忘れてしまって、人に迷惑をかけますか	0.08	0.09	0.11	0.07	0.00	0.01	-0.11	0.53
	5 楽しみにしていた予定や約束を忘れずか	0.08	-0.04	0.11	0.15	-0.12	0.02	0.08	0.47

表5 75歳以上の後期高齢者群の因子分析の結果 (n = 258)

因子名	質問項目	因子負荷量							
		Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5	Factor6	Factor7	Factor8
③忘却	14 言おうとしたことを忘れてしまったことがありますか	0.71	0.01	0.02	0.08	-0.03	0.10	-0.05	-0.02
	15 思い出そうとするが思い出せないことがありますか	0.65	-0.06	0.07	0.14	-0.03	-0.12	0.22	0.06
	13 何かをするはずだったのに何であたか忘れてしまったことがありますか	0.63	0.07	-0.05	0.02	-0.03	0.17	-0.05	0.01
①最新情報機器	16 何かを思い出すのに苦労しますか	0.53	0.01	-0.06	0.24	-0.09	-0.10	0.07	0.30
	3 コンピュータを使うようになりたいですか	0.02	0.90	-0.06	0.04	0.06	-0.02	0.04	0.01
	4 インターネットを使うようになりたいですか	0.03	0.90	0.01	0.01	-0.01	0.05	0.09	0.03
②表情認知	2 人の悲しみの表情がわかりにくいですか	0.01	-0.02	0.80	0.10	-0.14	0.11	0.02	0.06
	1 人の喜びの表情がわかりにくいですか	-0.01	-0.03	0.78	0.15	-0.09	0.10	0.04	0.11
④貯蔵, 符号化	19 覚えていることが難しいですか	0.16	0.03	0.01	0.59	-0.03	0.04	0.08	0.12
	22 ちよつとの間でもあることを覚えられませんか	0.04	-0.02	0.19	0.57	-0.07	0.01	-0.01	0.02
	20 新しいことを覚えるのに時間がかかりますか	0.28	0.09	0.00	0.41	-0.10	0.06	0.02	0.04
	17 大勢の人が話しているなかで、誰かと話をするのは難しいですか	-0.06	-0.03	0.11	0.35	-0.03	0.17	0.14	0.02
⑤自伝的記憶	21 電話をかけるまで電話番号が覚えられないのでメモをとりますか	0.17	0.03	-0.04	0.33	-0.07	0.19	0.17	-0.04
	10 小学生の頃のことがはつきりと思いませんか	-0.02	0.06	-0.11	-0.11	0.73	-0.01	0.00	0.04
	9 20歳代の頃のことがはつきりと思いませんか	-0.09	0.00	-0.12	-0.08	0.72	-0.01	-0.01	-0.11
⑥環境認知	7 公衆トイレの男女の標識がわかりにくいですか	0.01	-0.05	0.10	0.08	0.05	0.50	0.09	0.06
	8 道路の信号の色がわかりにくいですか	0.02	0.02	0.13	0.06	0.00	0.45	0.05	0.06
⑦記憶補助	18 本や新聞を読みながらテレビを見るのは難しいですか	0.07	0.07	-0.10	0.08	-0.18	0.31	-0.03	0.06
	12 忘れないよう、いろいろ自分なりに工夫をしていますか	-0.11	0.01	0.16	0.24	0.04	0.03	0.52	-0.07
⑧展望的記憶	11 忘れないよう、メモやカレンダーを利用していますか	0.17	0.11	-0.07	0.03	-0.03	0.11	0.51	0.01
	6 予定や約束を忘れてしまって、人に迷惑をかけますか	0.10	0.05	0.00	0.03	0.09	0.29	-0.02	0.42
	5 楽しみにしていた予定や約束を忘れませんか	0.03	0.00	0.20	0.08	-0.15	0.07	-0.05	0.39

(2) HDS-R との単相関

日常記憶・認知に関しては、因子ごとの標準因子得点、8 因子すべての合計点、記憶に関する 5 因子 (③④⑤⑦⑧) などの合計点も算出し、HDS-R に関しては、総得点や再生課題、作業記憶課題などの合計点も算出し、相関係数を求めた。その結果、日常記憶・認知と HDS-R の間には、ほとんど相関がみられず、有意な相関も得られなかった。この結果は、健常高齢者においては、HDS-R で測定される認知・記憶機能と日常記憶・認知の自覚症状の間には直接的な因果関係がないことを示唆している。そもそも HDS-R は痴呆のスクリーニングテストであることから、このような結果が得られるのも当然と考えられる。

(3) 2 群による HDS-R のロジスティック回帰分析の結果

HDS-R のカットオフポイントは 20/21 点であることから、上記までの分析では 20 点以下の者を分析から除外した。しかし、ここでは方法でも述べたように HDS-R 得点の高低 2 群を用いた。11 点以上 20 点以下の 109 名、21 点以上の 927 名の健常高齢者を用いてロジスティック回帰分析を行った (表 6)。独立変数には日常記憶・認知の 8 因子のなかから因子負荷量の高い項目 (.4 以上) の合計点を用いた (表 1 参照)。その結果、④貯蔵、符号化、⑥環境認知、⑦記憶補助、⑧展望的記憶の因子が有意であった。この結果は、これらの因子に関する自覚症状が HDS-R によって測定される記憶・認知パフォーマンスに影響する可能性があることを示している。

表 6 HDS-R を従属変数とする回帰分析の結果

Analysis of Maximum Likelihood Estimates

Parameter	DF	Estimate	Standard	Wald	Pr > ChiSq
			Error	Chi-Square	
Intercept	1	0.3391	1.3587	0.0623	0.8029
①最新情報機器	1	-0.2188	0.2169	1.0175	0.3131
②表情認知	1	-0.0213	0.1632	0.0170	0.8961
③忘却	1	-0.0235	0.0900	0.0681	0.7941
④貯蔵, 符号化	1	-0.2878	0.1123	6.5685	0.0104
⑤自伝的記憶	1	0.0839	0.1352	0.3851	0.5349
⑥環境認知	1	-0.5640	0.2215	6.4852	0.0109
⑦記憶補助	1	0.5717	0.1370	17.4059	<.0001
⑧展望的記憶	1	-0.4996	0.1605	9.6874	0.0019

Odds Ratio Estimates (オッズ比)

Effect	Point	95% Wald	
	Estimate	Confidence Limits	
①最新情報機器	0.803	0.525	1.229
②表情認知	0.979	0.711	1.348
③忘却	0.977	0.819	1.165
④貯蔵, 符号化	0.750	0.602	0.935
⑤自伝的記憶	1.088	0.834	1.417
⑥環境認知	0.569	0.369	0.878
⑦記憶補助	1.771	1.354	2.317
⑧展望的記憶	0.607	0.443	0.831

(3) 在宅高齢者の日常生活活動（ADL・IADL）とその関連要因に関する研究

分担研究者 小野寺敦志（高齢者痴呆介護研究・研修東京センター

研究企画主幹）

研究要旨：高齢者の在宅生活を支援するために、自立した生活を阻害する要因を把握し、予防的介入を行うことが重要になる。本研究は、自立している高齢者の日常生活活動である ADL・IADL を取り上げ、ADL・IADL の内容とそれに関連する要因を明らかにし、介護予防の方策を検討することを目的とした。平成 13 年度の研究成果より得られた、ADL・IADL の 10 因子の因子構造の再確認と、ADL・IADL に関連する要因の検討を行った。対象は宮城県気仙沼市大島地区の在宅高齢者 1550 名のうち、有効回答数 1134 名(有効回収率:73.2%)から、本研究対象に合致した 596 名を対象とした。その結果、ADL・IADL の因子構造は 10 因子を抽出し、昨年度の研究結果の因子構造と同様の結果を得た。その 10 因子は①「家計の管理」②「家事」③「他者との交流」④「段取りと実行」⑤「スムーズな身辺動作の衰え」⑥「足腰の衰え」⑦「交通手段の利用」⑧「感覚器官の衰え」⑨「出版物を読む」⑩「電話の利用」であった。次に ADL・IADL と性別、年齢、外来通院の有無、入院経験の有無との関連を検討した。その結果、ADL・IADL の性別による自立度の相違、加齢の影響、外来通院による自立度の低下、入院経験の有無による自立度の低下が示された。本研究の ADL・IADL は自己回答による主観的 ADL・IADL の程度であるが、高齢者の他の要因に影響を受けることが明らかになった。予防的介入には、これらの要因の有無や程度を踏まえた身体機能並びに社会活動性を維持し低下を予防する介入が求められる。

【緒言】

高齢者の日常生活動作（Activities of Daily Living；ADL）の測定法や評価法は、要介護高齢者の身体状況を把握することが主な目的で作成されて